

MEDiセンター

センター長
高知大学 医療学系長
菅沼 成文

高知大学の基本方針

- 高知大学で進行中の二つのビッグプロジェクト(地域の課題・ニーズに基づいたDX推進事業)
 1. 「“IoP (Internet of Plants)”が導く『Next次世代型施設園芸農業』への進化」事業
 2. 「SAWACHI型健康社会共創拠点」事業→ヘルスケアイノベーションによる医療・ヘルススタートアップの集積を目指す
- 大学の役割
 1. 優れた研究成果の提供
 2. 産学官金連携の主導
 3. 研究開発成果の**社会実装**推進
- 学長直下に「**MEDiセンター**」を設置
- (一社)医工協創拠点**MEDiTech**を他大学と共に運営

産学官金共創エコシステムをつくり産業創出を促進

なぜ高知県からヘルステックベンチャーなのか？

高知県は医療課題の最先進地域である

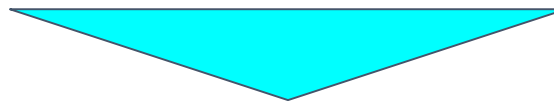
- ・ 一人当たりの医療費高い
- ・ 一人当たりのベッド多い
- ・ でも平均寿命短い
- ・ 過疎で医療サービスが行き届かない地域が増えてきた
- ・ 室戸病院閉院に象徴されるように、地域医療のあり方が大きな転換点を迎えている。

→この地での課題解決は、日本や世界の課題解決につながる

中央に集中した医療設計のため医療過疎地でのテクノロジーでの解決が寛容な風土

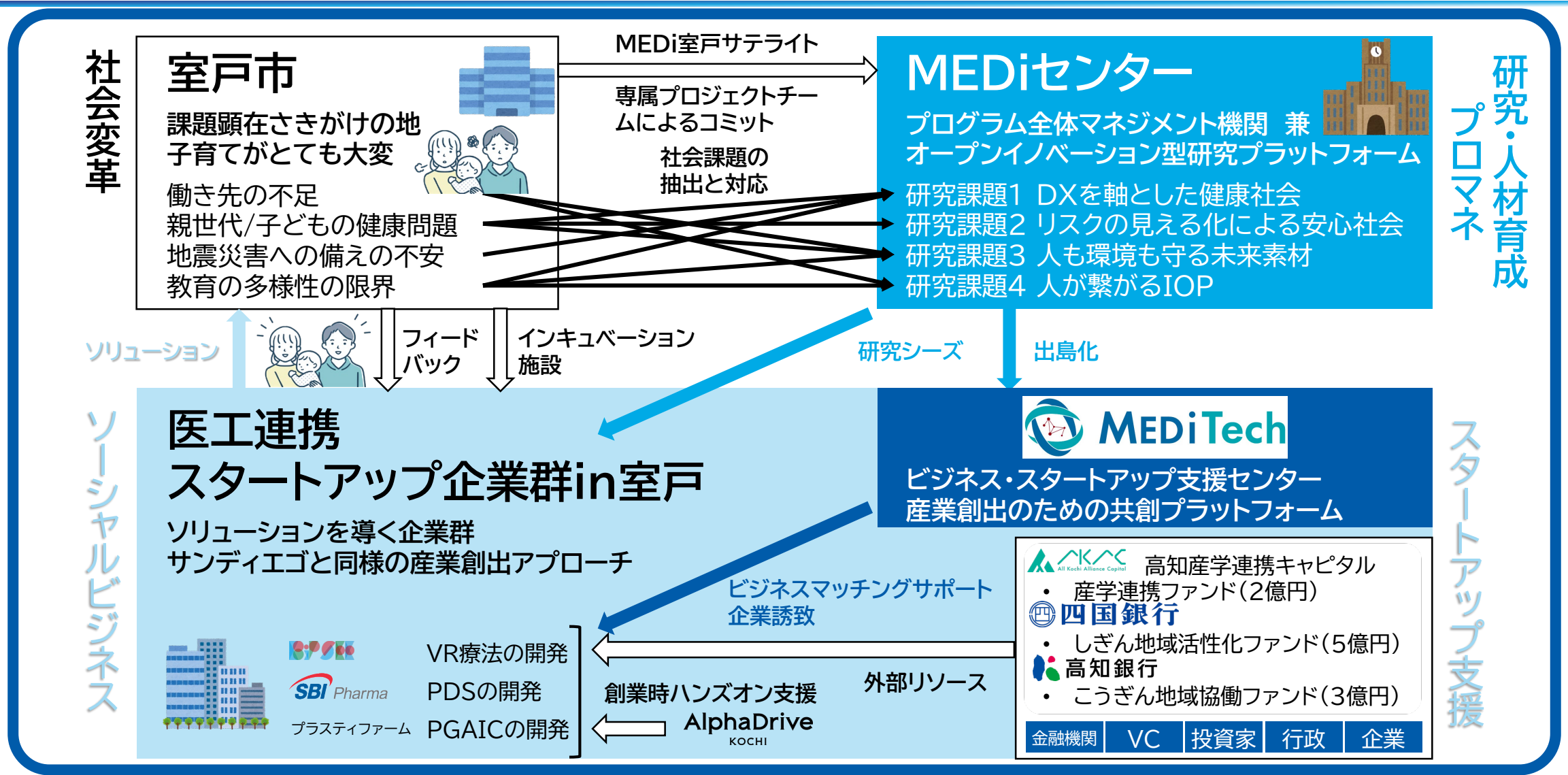
- ・ 高知家@ラインによる高知大と地域病院の医療情報連携
- ・ 高知県ヘルスケアイノベーションプロジェクトの格上げ(部署化)
- ・ 日高村とKDDIの実証実験
- ・ 室戸市とSAWACHI型健康社会共創
- ・ 梶原町とエクスメディオのオンライン診療実証研究

→ヘルスケアに特化して、こんなにヘルスケアのチャレンジに寛容な地域は他にない。



医療課題が日本で一番多く、チャレンジに寛容であり、ベンチャー支援する文化が醸成された高知県は、ヘルスケアベンチャーの集積地となるポテンシャルがある。

地域共創の場: SAWACHI型共創エコシステム



地域課題からイノベーションが生まれる共創エコシステムの創出

MEDiセンター(研究プラットフォーム)



学長

MEDiセンター



オープンイノベーション拠点MEDi
総務大臣訪問
(2022.1.13)

センター長
菅沼 成文
(医療学系長)

副センター長: 渡辺 茂

医学部長: 降幡 睦夫

次世代地域創造センター長: 石塚 悟史
産学連携・地域連携・知財管理支援

次世代医療創造センター長: 井上 啓史
臨床研究・治験支援

- 北陸先端科学技術大学院大学
- 岡山大学
- アリゾナ州立大学
- 等、学外有識者

学長直下の全学組織に位置づけ
ヘルスケアイノベーションに関するプロジェクトの全体マネジメント
オープンイノベーション型研究プラットフォーム

高知大学医学部 オープンイノベーション拠点 MEDI

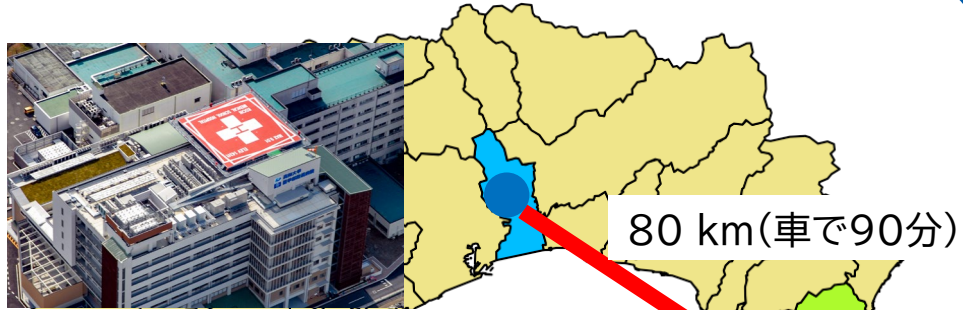
- 高知市中心市街地に開設
- 研究開発課題の実施・産学連携による社会実装・HealthTech企業の創出・出口戦略を総合的に支援



ヘルスケア × テクノロジー × アートが交差する
オープンイノベーションの場

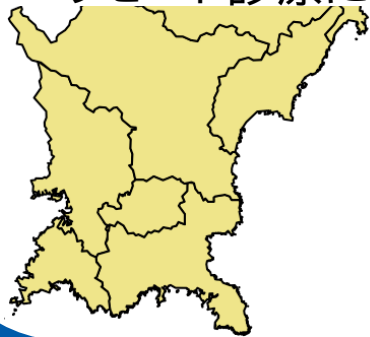
室戸市医療(地域包括ケア)デジタル化推進プロジェクト

大学病院を室戸市に直結



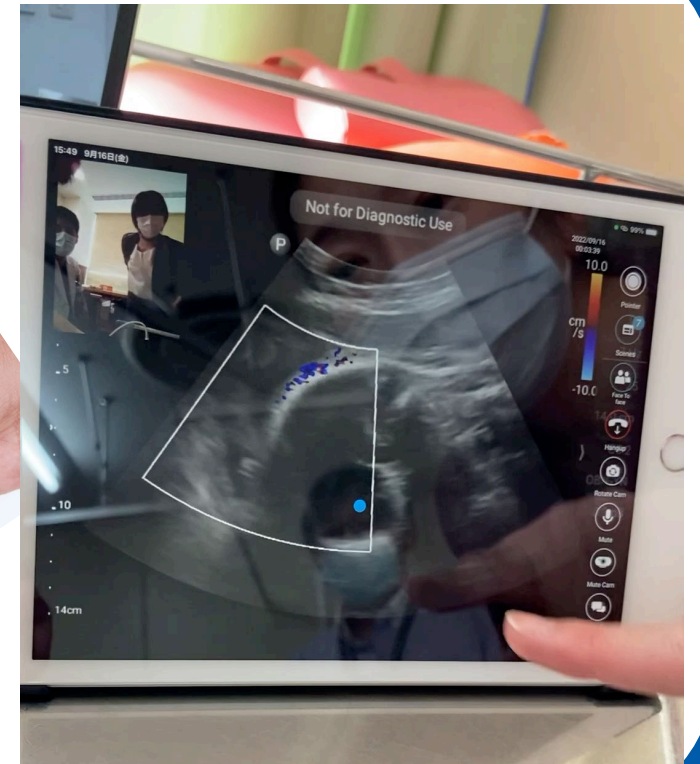
高知大学医学部附属病院

- 小児科医、脳外科医も
リモート診療にコミット



室戸市立室戸診療所

ポケットエコーによるリモート妊婦健診



ブラジル等、海外展開を見据える。拠点間連携を実施中。
遠隔診療の世界市場規模は2030年には約4600億ドル

ヘルステック関連スタートアップ企業

高知大学地域協働学部卒業生が起業

PR TIMES プレスリリース・ニュースリリース配信サービスのPR TIMES
Top | テクノロジー | モバイル | アプリ | エンタメ | ビューティー | ファッション | ライフスタイル | ビジネス | グルメ |

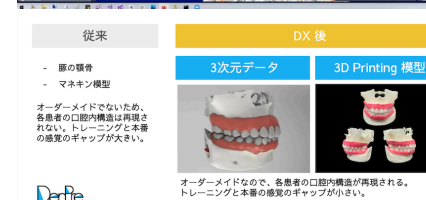
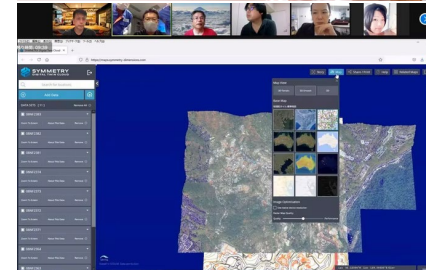
メタバースでメンタルを整える株式会社Flint、プレシードで総額約7,200万円の資金調達を完了

～企業従業員向けのアバターカウンセリングサービス「MentaRest」の開発を強化～



Flintがプレシードで**7.2千万円**調達
(2022.10)

VR/メタバース関連スタートアップ企業



多くのチャレンジャーが参集